

き抜いたたくましさ、その美しさからは想像できない。三木市内に残る数少ない貴重な自然を、大切にしたいものである。

県下最初の採集記録

小林桂助

私が昆虫採集に熱心であつたのは大正13年頃から昭和8年頃までであり、その後は鳥類の研究に転向したので昆虫とは疎遠となつた。しかし当時採集した標本は虫害をうけることもなく今日でも完全な形でキャビネットの中に残っているのもその中から県下としては最初の記録になると思われるもの数種を以下に報告する事とした。

ここ数年は鳥の調査に出かける毎に昆虫にも注意を払っているが、自宅に近い六甲や摩耶では目星しいものに出会う事がない。しかし昔は交通の便の悪かつた但馬や丹波の山々にも容易に行ける時代となり、ハヤシミドリシジミ、メスアカミドリシジミ、ウラクロシジミ、キマダラルリツバメ、ヒサマツミドリシジミ、ウスイロヒヨウモンモドキ、ホシチャバネセセリ、ギンイチモンジセセリなど往年は県下としては採集の困難であつた蝶をも比較的容易に採集することが出来るようになったのは喜ばしいことである。

キベリハムシ

兵庫県特産種として有名な甲虫であり、最初の採集記録は昭和の初期（昭和8年頃）と報告されている様である。所が筆者はそれより先大正15年8月に澁区篠原北町の自宅付近（当時は武庫郡六甲村字家ノ東）でススキの葉上に止つていた1頭を採集しているので、これが恐らく最も古録になることと思う。なお昭和45年8月16日には但馬の関宮町で3頭採集することが出来たがこれが県下の分布としては北限ではなからうか。

セジロカミキリ

全国的に見ても比較的少ない種類であるが、私のキャビネットの中に昭和6年7月に自宅で採集した1頭が収められている。当時ペランダの燈火に飛来したものを採集した時の記憶は50年近く過去のことでありながら生き生きとしている。兵庫県下の記録としては最も古いものではなからうか。

ギフチョウ

県下のギフチョウの分布については山本広一氏により詳しく報告されており（月刊むし、1971

年6月号)、現在神戸大学の敷地となつている所に雑木林があつた頃には多産した。

筆者がここで最初に採集したのは昭和2年4月20日であり其後昭和8年頃付近一帯の雑木林が皆伐造成されたことにより全く消滅してしまつた。

ダイセンシジミ

現在の六甲カトリック教会の北側に雑木林があつたのは昭和8年頃までである。その林縁部のアキニレの葉上でダイセンシジミを最初に採集したのは昭和5年6月16日であり、かなり破損した個体であつた。幸自宅から近い場所であつたので、毎朝採集に出かけ同年6月18日、19日、20日に各1頭新鮮な個体を採集することが出来た。兵庫県下としてはこれが恐らく最初の記録と思われる。当時はダイセンシジミは全国的に珍稀な蝶であり、採集家の垂涎するものであつたが大都市に近い地で採集されたことは極めて珍しい例とされていた。

「能勢の昆虫」その後(I)

仲 田 元 亮

1978年12月、念願の「能勢の昆虫」をだすことができました。

これを発行したことが、私自身の意欲に火をつける結果となり、甲虫学会の人達が能勢の甲虫調査をはじめられるというニュースを知ることとなり、今年は例年になくはりきつて越冬昆虫の採集にかけました。

いくつかの未記録昆虫を手にして喜んでおりますとき、高橋寿郎さんが、同好会への入会と「きべりはむし」への投稿をおすすめ下さいました。

おお喜びで入会させてもらうとともに、大変厚かましいことですが、未記録の甲虫と、私の不注意から記録もれになつた甲虫、兵庫県側初採集の甲虫、及び「能勢の昆虫」発行後、八木正道、堀田久、山下晶、大垣誠の4氏からいただいた甲虫のデーターをまとめて発表させてもらうことにいたしました。

これを機会に、兵庫県虫同好会の皆様方、よろしくお願い申し上げます。

§ Harpalidae ゴミムシ科

1. *Tachys nanus* クロチビカワゴミムシ

1979年2月11日、大阪府豊能町吉川峠、松切株樹皮下。 11 exs.

2. *Pterostichus microcephalus*